

第2章 流山市の文化財の概要

1 文化財の概要

流山市内には、令和6（2024）年4月1日現在、国指定等文化財、文化財の保存技術の選定はありません。県指定文化財2件、市指定文化財44件、国登録有形文化財6件、計52件の指定文化財が存在しています。また埋蔵文化財包蔵地は265か所存在しています。

表7 流山市における指定等文化財の状況

| 種類 | | 国 | 県 | 市 | 国 | 県 | 市 | 市 | |
|---------------|------------|----------|----|----|----|----|----|---------|-----|
| 指定区分 | | 指定 選定 | 指定 | 指定 | 登録 | 登録 | 登録 | 未指 定 | |
| 有形 文化 財 | 建造物 | 0 | 0 | 10 | 6 | 0 | 0 | 414 | |
| | 美術 | 絵画 | 0 | 0 | 6 | 0 | 0 | 0 | 10 |
| | | 彫刻 | 0 | 0 | 12 | 0 | 0 | 0 | 257 |
| | 工芸 品 | 工芸品 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 書跡・典籍 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 古文書 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 87 |
| | | 考古資料 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 192 |
| | | 歴史資料 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 110 |
| 無形文化財 | | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 | |
| 民俗 文化 財 | 有形の民俗文化財 | 0 | 1 | 4 | 0 | 0 | 0 | 1,692 | |
| | 無形の民俗文化財 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 21 | |
| 記念 物 | 遺跡 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 51 | |
| | 名勝他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | |
| | 動物・植物・地質鉱物 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 14 | |
| 文化的景観 | | 0 | - | - | - | - | - | 5 | |
| 伝統的建造物群 | | 0 | - | - | - | - | - | 0 | |
| その他 | | - | - | - | - | - | - | 62 | |
| 合計 | | 0 | 2 | 44 | 6 | 0 | 0 | 2,921 | |

(1) 千葉県指定文化財

千葉県内に所在する文化財のうち、特に重要なものについて千葉県文化財保護条例に基づいて指定し、保護しています。

有形文化財 考古資料

安蒜家の板石塔婆

正和4年(1315)と元亨2年(1322)銘をもつ板石塔婆です。埼玉県の秩父地方で産出される緑泥片石を使った武蔵型板碑で、いずれも高さが124cm、幅31cm、阿弥陀三尊が梵字で彫られています。鎌倉時代末期に造られた武蔵型板碑の代表的なものです。

民俗文化財 有形の民俗文化財

流山の白みりん醸造用具

江戸時代後期に2代堀切紋次郎と5代秋元三左衛門が開発した「万上」と「天晴」の流山の白みりん。機械化される前の様々な桶類や糶蓋、焼酎甕、焼印等、みりんの製造方法を知ることができる資料です。



安蒜家板石塔婆



流山の白みりん醸造用具

(2) 流山市指定文化財

流山市は、流山市文化財の保護に関する条例第5条に基づき市の区域内にある文化財のうち重要なものについて流山市指定文化財として指定し、保護しています。

有形文化財

建造物

建造物は、文政4年（1821）年建立で、本殿の羽目板彫刻が特徴の諏訪神社本殿・幣殿・拝殿をはじめ、江戸川の河岸として栄えた流山本町繁栄のシンボルで寛政元年（1789）に建立の赤城神社本殿など10件を指定しています。



諏訪神社本殿



赤城神社本殿

美術工芸品

絵画は、室町時代の作と考えられている絹本着色不動明王及び二童子像はじめ、仏画を計6件指定しています。彫刻では、室町時代の作と考えられる旧長福寺愛染堂の木造愛染明王坐像や流山2丁目閻魔堂の木造閻魔王坐像など計12件を指定しています。工芸品では、文政7年（1824）に作られた成顕寺の鰐口1件、歴史資料では、大正4年（1915）に作成された流山小学校の額と鬼瓦や新川小学校の鬼瓦、八木村の村長も務めた吉野誠の写真資料を指定しています。



愛染明王坐像



流山2丁目閻魔堂木造閻魔王坐像



流山小学校の額

無形文化財

鱈ヶ崎おびしゃ行事でのお囃子や神楽、流山本町の神社祭礼で祭囃子を長年演じてきたことから、流山の祭囃子、神楽等を、平成25年（2013）に流山市初の無形文化財として指定しました。赤城保存会が保持団体として活動しています。



鱈ヶ崎おびしゃ行事でのお囃子



大杉神社祭礼でのお囃子

民俗文化財

有形の民俗文化財

文化15年（1818）に奉納された大畔天神社「梅の図」の絵馬、眼病の平癒を祈った浄蓮寺の小絵馬、文久3年（1863）に奉納された市内最大の絵馬「俵藤太百足退治の図」の絵馬3件のほか、江戸時代から最近まで継続して行われ、くじ道具等の資料が揃っている流山3丁目庚申講関係資料を指定しています。

無形の民俗文化財

江戸時代から続く正月の地域行事で鬼の的を射る「歩射」や直会、おこもり等、昔からの形式をよく保っている「鱈ヶ崎おびしゃ行事」、上半身裸の男衆が鏡餅を奪い合い、餅の割れ方でその年の豊凶を占う「デンガラ餅行事」、約500kgのしめ縄3本を氏子と地域住民がつくる「大しめ縄行事」の3件を指定しています。



鱒ヶ崎おびしゃ行事（雷神社）



ゼンガラ餅行事（三輪茂侶神社）

記念物

遺跡

江戸時代後期の有名な俳人である小林一茶は、白みりんを開発した5代目秋元三左衛門（俳号・双樹）と親交が厚く、しばしば流山の地を訪れています。小林一茶が訪れた地を小林一茶寄寓の地（一茶双樹記念館）として指定しています。



小林一茶寄寓の地（一茶双樹記念館）

動物・植物・地質鉱物

タラヨウの葉は、ハガキの原型とも言われており、市内で唯一存在するタラヨウの木が光明院で見られます。また、流山の地名発祥の地とも言われる赤城神社の社叢林は、境内に350本余りの樹木があり、流山の象徴的な景観を形成しており、以上2件を指定しています。



光明院のタラヨウ



赤城神社社叢林

(3) 国登録有形文化財

国登録有形文化財は6件あります。このうち5件は、流山本町地区にあり、江戸川の水運で栄えた江戸時代から明治時代の建造物が登録されています。市内で最初の登録となった呉服新川屋は弘化3年(1846)に創業し、明治23年(1890)建築の2階建て土蔵造り店舗で、南と北の屋根には大黒様と恵比寿様の鬼瓦が載っていることが特徴です。寺田園旧店舗は、明治22年(1889)建築の土蔵造り店舗で、昭和38年(1963)まで茶・乾物店として使用されていました。笹屋土蔵は、江戸時代に建てられた呉服店旧三河屋の蔵を明治31年(1898)に現在地に移築したものです。2階建て土蔵造りで、梁には移築時に書かれた墨書が残っています。清水屋本店店舗兼主屋は、建築年代は明確ではありませんが、明治中期以前のもと考えられています。建物は店舗兼住宅で、店舗部分は2階建て、主屋部分は平屋建てとなっています。建物正面に店舗名を大きく表したモルタル造りの化粧看板が特徴となっています。秋元家住宅土蔵は、幕末・維新时期に活躍した新選組局長近藤勇が最後に陣を構えた場所に建つ土蔵です。笹屋土蔵と同じく、呉服店三河屋の蔵を移築したものです。

流山本町以外で唯一登録されているのは、松ヶ丘一号型街路灯です。街路灯は昭和30年(1955)に宅地分譲が始まった住宅団地の防犯灯として設置されたもので、高度成長期に作られた貴重なものです。



呉服新川屋店舗



松ヶ丘一号型街路灯

(4) 未指定文化財

未指定文化財は、2,921件を把握しています。ここでは、各類型について、主な文化財を説明します。

有形文化財

建造物

流山本町区域には、江戸時代後期から明治・大正・昭和前期の商家や蔵が多く残っています。

また、神社・寺院にも江戸時代後期から昭和初期に建てられた建物が多く存在しています。



旧河原家住宅（あかり館）

美術工芸品

絵画

笹岡了一・秋元松子の絵画の他、昭和の流山の移り変わりを描いた鈴木心平の絵画などがあります。

彫刻

博物館の調査研究報告や市史編さん事業によって、仏像・石仏の調査を行いました。江戸時代に造立された仏像をはじめ、利根運河の観光資源として整備された利根運河大師など、流山の歴史を語るうえで欠かせない文化財です。



利根運河大師



六社神社舟形神輿

古文書

市内には江戸時代の村の様相や小金牧に関する記録を多く残す「吉野家文書」、「岡田家文書」、「鏑木家文書」、「須賀家文書」、「恩田家文書」やみりん醸造関係の資料を多く残す「秋元本家文書」、近代の流山町の状況を知ることのできる「岡本家文書」、「旧寺田家文書」、「小谷家文書」などの古文書があります。

考古資料

発掘調査などで出土した遺物は12,000箱以上あり、時代ごとに注目すべき資料が数多くあります。縄文時代では三輪野山宮前遺跡の縄文土器や三輪野山貝塚から出土したヒスイ加工関連遺物、弥生時代では加村台遺跡出土の土器及び石器、古墳時代では東深井古墳や鱒ヶ崎三本松古墳から出土した埴輪、奈良・平安時代では加町畑遺跡の古代銭貨や墨書土器、中世では、思井堀ノ内遺跡や西平井根郷遺跡から出土した鎌倉時代の地頭矢木氏に係わる和鏡や短刀、陶磁器等があげられます。

歴史資料

近代の利根運河株式会社の資料が残っている「柳澤家文書」や流鉄の会社関係資料、明治・大正・昭和の学校の沿革がわかる教育史関係資料などが存在しています。

無形文化財

かつては、渡しの船頭や桶職人、屋根職人、木挽職人が多く存在していましたが、その技術は途絶えてしまいました。現在、千葉県の伝統工芸士として、木撥と節句人形の技術者が認定されています。また、流山本町を彩る切り絵行灯製作者が活動を行っています。

民俗文化財

有形の民俗文化財

未指定の文化財として、富士塚や庚申塔（信仰）・馬頭観音などの民間信仰、醤油・みりん・味噌の醸造関係用具などがあげられます。

無形の民俗文化財

市内には市指定になっている「鱈ヶ崎おびしゃ行事」や「ゲンガラ餅行事」の他、旧字ごとに多くのおびしゃ行事が現在も行われています。これらの中には、古くからの行事の形態を残しているものが存在しています。また、夏や秋に行われている地域の祭礼も貴重な文化財です。



大杉神社祭礼神輿渡御



向小金おびしゃ行事

記念物

遺跡

上新宿貝塚、上貝塚貝塚、三輪野山貝塚、野々下貝塚等の縄文時代の環状貝塚や東深井古墳群等が比較的良好に残っています。近世では、幕府の官営牧であった小金牧関連の遺跡である松ヶ丘野馬土手が良好な状態で保存されています。また、近代では、文化庁の歴史の道百選に選ばれている利根運河（流山・柏・野田市）があります。

名勝地

みりん醸造家の秋元本家の邸宅・庭園であった一茶双樹記念館の庭園やみりんの販売を行っていた秋元平八家の庭園であった杜のアトリエ黎明等があります。

動物・植物・地質鉱物

利根運河に接する東京理科大学理窓会記念自然公園や東深井古墳群がある古墳の森、運河の堤防斜面やおおたかの森、思井熊野神社の社叢林などには動物や貴重な植物も多く生息しています。

文化的景観

利根運河の水と自然が調和した景観は、文化や歴史的に重要な由緒を有する古道、交通関係遺跡を文化庁が「歴史の道」として選定をした1つとして、令和元年（2019）に歴史の道百選に選定されているほか、土木学会が、土木遺産の顕彰を通じて歴史的土木構造物の保存に資することを目的とした推奨土木遺産に平成18年（2006）にも認定されています。この他には、新川耕地の水田と斜面林、市野谷の森の里山、西初石の小鳥の森の自然、思井・芝崎の斜面林、前ヶ崎の水田と斜面林等は流山市にとっては昭和以前の風情を残す貴重な景観です。

その他

文化財の6類型以外にも流山市として守っていくべきものが存在します。

流山本町をはじめ、市内各所に設置されている切り絵行燈、中世や江戸時代から続く大字や小字の地名は、町変更により名前が変わってしまったもの、消滅してしまったものがありますが、流山の歴史にとってかけがえのないものです。

また、水戸街道や日光東往還等の主要街道の他、江戸時代から続く道、戦後の高度成長期に開発された松ヶ丘・江戸川台の整然と整備された街路や大規模な区画整理事業で誕生した街区も大切な文化財です。



松ヶ丘住宅団地